

「情報社会の中で、いかに薄氷の上に生活していたかということがよくわかりました」

携帯電話も有線電話もつながらず、唯一つながっていたのは消防団の無線だけ。

こういった中、断片的に入ってくる情報を整理し、「今すぐやるべきこと」と「地域再建に向けてやらなければならないこと」について行動方針を1枚のシートにまとめ、みんなで共有したそうです。

「災害に

対応するための

一番の力は、

何といっても

地元の消防団や

地域の防災組織です」

震災では、最初の24時間の初動対応が決め手。助かる可能性のある命に対して、全力をあげることが最初になければならないこと。

立谷市長は、「大規模災害で行政の手が回らない中、住民の避難誘導や倒壊家屋の状況把握など、相馬市の消防団が果たした役割は非常に大きかった」と、消防団の地域に密着した対応の重要性について言葉を重ねて訴えておられました。



防災講演会
「相馬に学ぶ」

立谷市長の防災語録

6月30日、福島県相馬市の立谷市長を迎えて、ルッチプラザで防災講演会を開催しました。

「病死、経済自殺、孤独死から今ある命を守る。」

次の死者を出さないために…」

医師でもある立谷市長はその知識とネットワークを生かして、避難所での医療体制の充実を図られたほか、弁護士による法律相談や臨床心理士によるPTSD(外傷後ストレス障害)対策など、専門家を招いて様々なケアが行われたそうです。

また、お互いの気配を感じることができる長屋風住宅の建設や、見守りがかねて仮設住宅を巡回する「リヤカー販売」など、孤独死の対策にも積極的に取り組まれていました。

「相馬市に

防災倉庫を作ります。

米原市に何かあったら

すぐに駆けつけます」

この講演会において、両市で「災害時における相互応援協定」を締結しました。現在、相馬市では、災害体験を伝えていくための研修施設をかねた防災備蓄倉庫の整備を進めておられるそうです。

立谷市長は、「震災の体験を伝えていくことが、これまで支援を受けてきた相馬市の役割。今回の震災は相馬市にとって苦しい経験でしたが、ぜひ米原市の安心・安全に役立ててください」と語っておられました。

引き続き相馬市の復興支援にご協力を！「相馬に新米を贈ろう」

相馬市では復興に向けて地道に歩む一方、一部の地域で農作物から国の基準値を超える放射線量が検出されています。こういった地域のみなさんに、米原のお米を届けたいと思いますので、みなさんのご協力をお願いします。

詳しくは、決定しだい広報や伊吹山テレビなどでお知らせします。

